野田八幡大神社

祭神は、帯仲津彦命（たらしなかつひこのみこと　１４代仲哀天皇）、息長帯姫命（おきながたらしひめのみこと　神功天皇（第１４代皇后））、誉田別命（ほむだわけのみこと　１５代応神天皇）。

平安時代、醍醐天皇（８９７）のころに、山城国石清水八幡宮より御三柱のかみを勧請し、藪床八幡宮と称していた。その後、後三条天皇（１０６８）のころ、河野親経公の崇敬するところとなり社号を正八幡宮と改称した。古来より野田村・長田村・豊田村の氏神である。

戦国時代となり渋柿城主薦田義清の崇敬を受け、社殿の造営等あった。その後、寛文年間（１６６１～７３）には、一柳氏が八日市に館を設け当社を祈願所とされた。その後は、西条領に属し、御代参などがあった。明治時代になり、社号を八幡大神社と改め今日に至っている。

八幡大神社の本殿西にあるクスノキは、推定樹齢３００年以上とされ、樹高３０ｍ、目通り８．２ｍ、根回り２９ｍで、市内では関川の大川のクスノキに次ぐ大きなものである。八幡大神社のクスノキとして親しまれ、四国中央市の天然記念物に指定されている。